

公民館かながわ



申次

県公民館連絡協議会事業報告

生涯学習支援者研修「公民館

担当者セミナー」報告

……2

関東甲信越静公民館研究大会

兼神奈川県公民館大会報告

……3

特集

「教育・文化をまちづくりの柱に
く文化・教育ゾーン整備計画」

(逗子市) ……4

わが館の自慢事業

「横須賀市立久里浜公民館」

……6

サークル紹介

混声合唱団「ムジカおさらぎ」

(鎌倉生涯学習センター) ……7

手話サークル「加絵手」

(相模湖町桂北公民館) ……7

職員からの一言

相模原市立大野台公民館

活動推進員 長池慶子 ……8

平成17年県公民館連絡協議会事業報告
生涯学習支援者研修

「公民館担当者セミナー」

関東甲信越静公民館研究大会の開催地となった今年は、単独事業として企画された研修は、県との共催となる「生涯学習支援者研修～公民館担当者セミナー」だけとなりました。

例年実施している館長・公運審研修会は、第47回の県公民館大会を兼ねた関東甲信越静公民館研究大会に集約的に含まれた形となりました。併せて報告します。

県公民館連絡協議会と県教育委員会との共催によるセミナーを六月の三日間、県生涯学習情報センターで開催しました。テーマは「生涯学習拠点としての公民館の機能と職員のあり方」です。総勢七十四名の参加申し込みがありました。講座のテーマ・講師と参加者の感想の一部を紹介します。

一回目（六月二日）

○講義「生涯学習と社会教育」

～公民館職員として～

茨城大学助教授 長谷川幸介氏

感「公民館の役割は地域の人に『役』を作ること。カタログが作れるくらい豊かな役を作ることが大切。」ユーモアたっぷりで笑いの中の講話だった。地域の結びつきの大切さを実感した。

○人権ワークショップ

「公民館職員として」

心がけたいこと」

県教育局中教育事務所

社会教育主事 鈴木義邦氏

感「バリアフリーやユニバーサルデザインについて、普段見落としがちであることに気づいた。」

○講話と情報交換

「日常業務を通して」

～各市町村の取り組み～

座間市立東地区文化センター

社会教育主事 植松賢也氏
感「各市町村が持つ苦勞を知り、今後の課題もあったが学ぶべきこともたくさんあった。」

二回目（六月十五日）

○講義とワークショップ

「公民館事業の企画・立案と評価」

～住民参画とラベルワーク～

横浜国立大学教授 林義樹氏

感「※ラベルワークで参集、参与、参画を学び、公民館職員としての意識が高まった。」

※ラベルでの課題整理をとおして、個人から集団へ知識を昇華する。



三日目（六月三十日）

○実践事例発表

「学びの地域への還元」

相模原市立大野南公民館

〔表紙〕新館「堀川公民館」秦野市

市内十一番目の公民館として、平成十七年二月二十五日に開館した秦野市立堀川公民館。「人にも、自然にも優しい公民館」をキャッチフレーズに、バリアフリーに最大限の配慮をし、太陽光発電や雨水浸透ますを設置するなど、地球環境の保全対策も取り入れました。場所は、丹沢の登山口、小田急線の渋沢駅から徒歩十五分、国道二四六号線から少し入ったところにあります。近くには、ハイテク企業の工場や幼稚園、学校、スーパーマーケットなどがあり、区画整理事業で新しい住宅も建ち並んでいます。まだ農地も多く残っている比較的閑静な地域です。建物は二階建てで、延床面積一、四九六㎡と、秦野市では標準的な規模の公民館ですが、今までの公民館建設の経験や利用者の声を随所に生かして、施設・設備面で利用しやすい工夫がされています。特に、子どもや親子連れが自由に使える児童室は利用が多く、また、広々として明るいロビーでは、談笑する人たちの姿も目立ちます。防音性の高い音楽室も人気があり、若者のバンド練習やカラオケ、コーラスなどに利用されています。

利用者 洪田見佳恵子氏

「公民館の利用者の意見はあまり聞いたことがなかったのでフレッシュユな感じだった。公民館への期待「公民館は意志ある言い出しつぺを支える器」であることがわかった。

「秦野市公民館の歩みと今後」

秦野市堀川公民館

館長 伊藤仁志氏

「感」公募による館長として新しい公民館をどのように運営しているか。時代と公民館の変化も話していた。だきよかった。

○講義と情報交換

「これからの公民館のあり方」職員として取り組むべきこと」

文教大学教授 野島正也氏

「感」明確で歯切れのよい講義だった。公民館での市民の三つの活動とそのねらい「学習と交流」などわかりやすかった。

「感」情報交換では、公民館事業の魅力ある展開、学習者への接遇のあり方についてなどグループで現状や方策について意見交換し、他の館のことがいろいろわかった。(県生涯学習文化財課 安田恵美子)

第四十六回関東甲信越静公民館研究大会 兼第四十七回神奈川県公民館大会報告

○日 時 平成十七年八月二十五

日(木) 十三時三〇分～二十六

日(金) 十二時

○会場 全体会会場 横須賀芸

術劇場 分科会会場 横須賀市

生涯学習センター・横須賀市産

業交流プラザ・横須賀市立総合

福祉会館・ヴェルクよこすか

○参加者数 神奈川県内(スタッフ

フ・来賓等含む)五一九名、県外参加者数五五八名 合計

一、〇七七名

分科会 二十五日(木)

○内容 容 十四の分科会(管理運

営に関わる分科会二分科会・対象

内容に関わる分科会一〇分科会・

特別部会二分科会)ごとに基調提

案が行われ、そのあと、テーマに

基ついた事例発表・協議が行われ

た。

※分科会の発表内容及び協議内容については大会記録集参照。

情報交換会 二十五日(木)

○会場 横須賀平安閣

神奈川県教育委員会教育局生涯学習文化財課富田課長、横須賀市教育委員会藤原教育長、全国公民館連合会松下会長ほか多数の来賓を迎えて、関東甲信越静一都一〇県の参加者が集い、公民館を巡る現状や課題等について情報交換が行われた。(参加者二七名。)

全体会 二十六日(金)

鼎談 テーマ「地域社会の創造・再生をめざす公民館の運営」教育機関として豊かな地域社会を育むために」

鼎談者

大正大学教授 蛭田 道春氏
帝京大学助教授 佐藤 晴雄氏
東京大学助教授 鈴木 眞理氏
式典

神崎節生実行委員長、社団法人全国公民館連合会会長松下誠氏による主催者挨拶。来賓の神奈川県教育委員会教育局長前田重一氏より祝辞を、横須賀市蒲谷亮一市長より歓迎のお言葉をいただいた。表彰式 全国公民館連合会表彰

優良職員表彰一〇名、神奈川県からは、横須賀市生涯学習センター主査高橋直人さん、永年勤続職員表彰二七名の中では、寒川町民センター副主幹矢野泰生さんが受賞された。

神奈川県公民館連絡協議会表彰

優良公民館表彰には秦野市立渋谷公民館が、永年勤続表彰は前神奈川県寒川町北部文化福祉会館主任主事内藤美枝子さんが受賞された。

大会アピール

桜井照子副実行委員長

大会旗引継ぎ

神崎実行委員長より、次期開催県、群馬県公民館連合会松島裕会長に大会旗が引き継がれ、大会が終了した。



文化・教育を街づくりの柱に ～文化・教育ゾーン整備計画（逗子市）

逗子市では、市内の中心部に市民の教育・文化活動の拠点となる施設を集中する「文化・教育ゾーン整備事業」に取り組んでいます。小学校の新築移転をはじめ、図書館と文化プラザが開館しています。さらに今年度には、生涯学習棟やグラウンドの整備も進む予定です。

今回は、これらの事業を市民参加ですすめてきた経過と、「文化プラザ」計画の概要を聞きました。



完 成 予 想 図

《文化会館を望む声》

昭和三十七年以来、図書館ホールや市民体育館などを活用してきた文化協会をはじめ、市民合唱団などの団体から、生涯学習、文化事業の振興のため、演劇などを行うのに相応しい舞台が必要だと、またその後の文化・芸術団体・サークルの増加に伴って、発表の場が手狭になるなどの理由から、文化会館建設を待ち望む声がありました。

そこで市は、平成元年に施設建設のための市生涯学習施設整備基金を設置、平成三年に、市まちづくり懇話会の市学習検討部会から文化会館、体育館などの施設整備の必要性について提言されました。また、平成七年には社会教育委員会議からも生涯学習の拠点としての総合文化会館建設について提言がありました。

《基本構想策定》

平成八年七月に逗子市文化・教育施設基本構想策定委員会が教育委員会内に設置され、平成九年四月に基本構想が市長に報告されました。

その中身は、平成九年三月の逗子市立体育館完成に合わせ、その跡地と市立図書館敷地、逗子小学校敷地を含むエリアを「文化・教

育ゾーン」として位置づけ、市民自らが使い、また、広く市民の活動をサポートする機能を併せ持った施設（ホール・図書館）を整備する。また、逗子小学校については、建替えも視野に入れ、防災拠点としての機能の充実や、地域に開かれた特色ある学校づくりを念頭に置き、このエリアの再整備を図るための①基本コンセプト②機能③施設の規模④管理面から見た施設の四つの視点から検討を行いました。

そして、平成十年に文化・教育ゾーン整備計画案選考委員会を設置、六社によるコンペを行い事業者を選定、その後、行政側との立地、財政面でのすり合わせが必要となりました。

《基本設計と「市民選択方式」の採用》

市では、コンペ案を基に施設の機能を損なうことのないよう縮小案を作成しました。そして、この事業を効果的に進めることから、市民一人ひとりに財政状況（縮小案）を理解してもらい、さらに基本設計作成までの経過の中で、市民のみなさんに積極的に関わってもらうために設計の「市民選択方式」を採用しました。

《市民選択第1弾「ざし広報」

特集号でアンケート募集》

この縮小案での事業進行について、その可否を含め、アンケート形式で市民から意見を募りました。結果は縮小案で建設することは賛成でしたが、設計内容について種々意見・要望をいただきました。

《市民全体会議》

市民共通の理解を得るために、誰でもが参加できる市民全体会議を開催し、広く市民から意見・要望を聞きました。①臨時の市民全体会議（一七〇名参加）②地域の市民全体会議（計五回）

《オープンミーティング》

行政、設計者も出席し、だれでも参加できるオープンミーティングを土曜日の午前に開催。（八回）毎回五〇名程度が参加、白熱した議論が交わされました。

《市民選挙第二弾三案作成、市民が選挙》

市民から寄せられた意見・要望の中で「地下部分はいらさない」「小学校の校舎をもっと低層にできないか」など多数の意見・要望を受け、設計に反映。その結果を、市民選挙第二弾として三案と、地下駐車場設置の有無について、広報に掲載、賛成多数で地下に設置を計画していた温水プールを無くした案に決定しました。

《市民選挙第三弾で基本設計完成》

しかし、平成十三年三月の市議

会で、「温水プールの整備を求め、その可否を含め、アンケート形式で市民から意見を募りました。結果は縮小案で建設することは賛成でしたが、設計内容について種々意見・要望をいただきました。」

市としては、作成中の基本設計

を一時中断し、一般の利用や福祉的な活用も可能となる温水プールの必要性について検討しました。

そのうえで、「市民選挙第三弾」としてプールの形態（一、屋内温水プール設置、二、屋外プール設置）について再度アンケートを募り、結果、温水プールを設置した案で基本設計を完了しました。

《実施設計がまとまる》

《市民からの期待》

このように一つ一つ設計上の問題を改善しながら、平成十四年三月に実施設計が完了しました。

逗子文化プラザ、文化・教育ゾーン整備工事（第一期工事）は、逗子小学校が平成十六年三月に完成、ホール・図書館棟が平成十七年三月完成し、四月十七日に図書館が、六月十九日にホールが、それぞれオープンしました。

そのホール・図書館棟と、生涯学習棟（平成十七、平成十八年度工事）を加えて、全体を「逗子文化プラザ」とし、様々な市民活動

を支援する複合型の文化・教育施設となります。市民の文化活動の活性化に寄与するとともに、「ひと」と「まち」の潜在能力を引き出す文化政策の拠点として、「文化の薫るおしゃなまち」を実現する施設となりました。



市民利用者の方からは、逗子小学校棟も含め、建物自体がシンプルで意匠的にも派手なところがなく、逗子のシンボルとして期待されています。

特に「なぎさホール」は『音響的にも響きがよく、気持ち良い空間』であるとの感想が寄せられています。

《逗子小学校》

新設逗子小学校は、多様な授業形態に対応できるようにオープンスクールを採用しています。

現場の教師はこのスペースを使いこなせるのか、はじめのうちは戸惑いを感じていたようです。

はじめ、隣教室の音が聞こえる問題も心配されましたが、仕切りがないことから視野が広く、落ち着いた雰囲気生まれたこと、また、広いスペースを有効活用すること、多様な活動が可能となり、一年を経過した今、子供たちは落ち着いて学習に集中するようになっていくようです。

オープンであるため、夏場は心地よい風の流れが感じられますが、逆に冬場は昇降口から風が吹き込み寒いので、なにか工夫がないかとの指摘があります。考えられた施設でも、やはりメリット、デメリットがあります。オープンスタイルという教室のスタイルを採用したですから、空間的なメリットを生かし、画一的な学校教育の改革をめざした新しい授業形態を生み出してくれる施設となるように期待が高まっています。

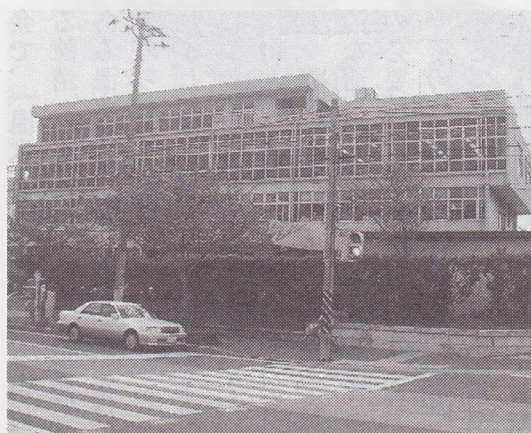
※計画と経過の寄稿をお願いし、編集させていただきました。



わが館の自慢事業

「あなたも裁判員・コーチング ～特色ある事業への取り組み」

横須賀市立久里浜公民館



久里浜は春にはポピー、秋にはコスモスが咲き乱れる花の街、そしてペリー上陸の地としても有名なところですが、そんな久里浜に位置する久里浜公民館が、今年度開催した二つの公民館講座を紹介いたします。

今年七月に開催した「あなたも裁判員」について。この講座は横浜地方裁判所の全面協力をいただいて実現した講座です。二〇〇九年五月に始まる裁判員制度や裁判の傍聴について、横浜地方裁判所に相談したところ、「午前中に裁判の傍聴をして、午後から現役裁判官による裁判員制度の説明と質疑応答で終了は十四時三十分」という内容の提案をいただき、この講座が実現しました。ほとんど



の方が「自分が裁判員になったらどうなるのだろうか」という思いを持って参加してくださったように、熱心に裁判を傍聴し、裁判員制度の説明が終了してからの質問が途切れることなく、非常に好評でした。講座が一日で完結する、ということも好評だったようです。

次に「コミュニケーションとれていますか?」について。こちらは九月の毎週水曜日、時間帯は夜七時から九時まで、全五回で開催しました。内容はコミュニケーションを上手にとるためにコーチングスキルを学ぶ、というものです。定員二〇名のところ、三〇名の応募があり、ニーズの高さを感じました。すぐに行ける実践的なエクササイズ、毎週先生からの宿題とその宿題の発表、という参加者が「よく考え、しっかり話す、

きちんと聞く」講座でしたので、毎回到ぎやかで、とても盛り上がりました。この講座でも、参加の皆さんが「職場でのコミュニケーションをうまくとっていきたい」とか「家族とのコミュニケーションが課題」などと、それぞれ自分の課題を持って参加していただき、欠席者も少なく、こちらもとても好評でした。

この二つの講座に共通するのは、二〇代から七〇代まで幅広い年齢層の方、しかも約半数は男性が参加している、ということ。公民館に足を運ばれる方は現役をリタイアした世代が多く、三〇代から五〇代のお勤めしている方たちは、ほとんど足を運ぶ機会がありません。幅広い世代、職業の人たちが参加できる講座の企画は、私たち職員の課題でもあります。

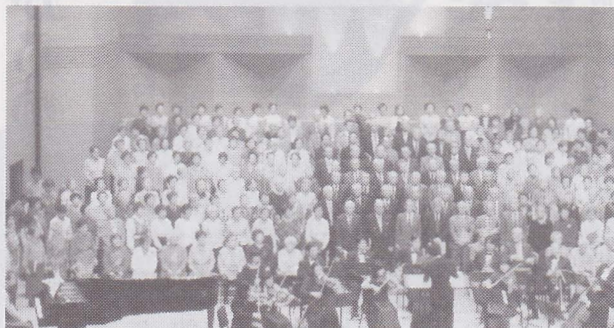
この二つの講座を開催して、企画内容が現代的な課題であったり、開催時間や開催期間を工夫することで、いままでも公民館に縁のなかった人たちが足を運んでくれることがわかったのは、とても大きな収穫でした。これからは様々な世代、職業の方たちが興味を持って参加できるような企画を考えていきたいと思っています。

(社会教育指導員 茂呂敦子)



サークル紹介

混声合唱団「ムジカおさらぎ」



私どもの混声合唱団「ムジカおさらぎ」の入団資格は六〇才以上で、三二〇名の団員がおり、最高年齢は九十三才、平均年齢は七十六才です。

本年四月、鎌倉芸術館大ホールで第十六回の定期演奏会を、オーケストラとの共演で行いました。来年は四月九日(日)同じ大ホールでオーケストラの響きと共に歌うべく、佐藤ゆ

<その1>

鎌倉生涯学習センター

り先生のご指導のもと、毎週一回鎌倉生涯学習センターホールを主な練習会場として、練習に励んでおります。

当合唱団は鎌倉生涯学習センターとは関係が大変深く、十七年前の昭和六十三年五月に当時の鎌倉市中央公民館(現学習センター)で「高齢者合唱教室」が開かれたのが始まりです。終了後も更に教室の継続を望む声が多いため、公民館の事業として二年目、三年目と継続されました。なお「高齢者合唱教室」の名前では抵抗があるということで、参加者から名前を募集し、「ムジカおさらぎ」と称されることになりました。

平成三年三月をもって公民館による「高齢者合唱教室」は終了し、四月より新たに自主サークル「ムジカおさらぎ」が、公民館のご理解とご協力のもとに従前と同じくホールを練習会場に発足し、教室時代の生徒を主に三三六名の団員が集まりました。当初は童謡や小学唱歌で始まった当合唱団も、今ではオーケストラと共演するまでに成長しました。更に研鑽し、歌って楽しい聴いて楽しい合唱団を目指していききたいと思います。

(代表 田中篤治)



サークル紹介

手話サークル「加絵手」



<その2>

相模湖町桂北公民館

コーラスの指導でした。以来、小学校の手話クラブを担当したり、中学校の福祉体験講座のお手伝いをしたりしています。

手話はお互いの手と顔とが向き合ってはじめて通じる温かい言葉です。引つ込み思案の人もだんだん表情豊かな顔に変わっていきま

「手話」は聞こえない人の言葉です。手のひらをひらひらと動かして思いを目に見える形(絵)にして伝えます。そういうことから手話を学習した仲間が集まって、会の名前を「加絵手」としました。

平成七年のことです。メンバーは七名、相模湖町ボランティア連絡会の所属です。

はじめての活動は相模湖町の老人会での「ふるさと」の歌に手話をつける手話

メンバーは二十名と増え、十代から七十代までと幅広くなりました。一ヶ月に三回、火曜日の夜に公民館に集まって例会を開いています。その他、耳の不自由な人たちとの交流を深めることも大切に行っています。バス旅行や納涼会、忘年会、バーベキューなど、毎回新鮮で楽しい出合いがあります。そしてそこでもう方から元気をいただいています。

手話は騒音の中でも、ガラス越しでも、遠く離れていても会話できる便利な言葉です。声をなくした人、高齢者難聴の人、コミュニケーションをとるのが苦手な人、そしてそのまわりの人たちが手話を使えたらとても暮らしやすくなると思います。それを私たちの会でうまく伝え広げていけたらと考えています。(代表 坂田美智子)

職員からの一言

相模原市立大野台公民館

活動推進委員



長池 慶子

「職員として働いてみると」

「公民館」との出会い、ほんの偶然だったかもしれない。

二〇年程前のこと、子どもの仲間づくりを目的に、幼児の集団遊びの場を探していた私は、身近な公的機関である「公民館」と出会った。

「公民館」とは地域の人たちの会合を持つ場、という古めかしいイメージしか持っていなかった。で、あまり期待はしていなかった。その後、関わるうちに、教育機関であること、結構多彩な事業を展開していることに気づいた。

以来、事業に参加したり、サークル活動の場として利用したり、公民館の運営審議会委員までやらせてもらい、平成十四年からは公民館活動推進員として勤務することとなった。

公民館利用者だった時に、事業に参画しながら、こんな具合にできたら面白いとか、マンパワーをどう使うとか、公民館は何を目的に運営されるべきかなどの話題にのってくれる職員たちと出会えたことも幸運だった。おそらく当時の職員は迷惑だったと思うが、公民館をどう活用できるかがわかったし、利用者では越えられない壁も見えた。それが活動推進員への応募につながったのだと今は感じている。

さて、実際に働いてみると、まず実務を学び、地域を学び、人に学び……。一年目は自分の事業をつくるどころではなく、仕事場がまさに自分の生涯学習の場であった。また、私自身が望んでいた住民参画型の事業展開が、実際手がけてみると思いのほか時間のかかることも経験した。このことは、利用者だった自分を検証する良い機会となり、今後自分が住民の立場で参画する時に、何らかの糧になるとも感じている。

今年も四年目となり、少しはましなことをと意気込んではいるが、結果はどうであろうか。私自身の今年の目標「地域の協力者との連携を深め、住民主体の事業づくりを進める。」は前進できたか。形

だけの連携をつくって満足していないだろうか。今は評価されるのがちよつと不安である。

地域の人々を結び付け、ともに事業を展開してその充実感を共有し、それが更に地域づくりへとつながっていくような公民館の事業のあり方を今後も学んでみたいと考えている。

編集後記

皆様、健やかに年末をお迎えのことと思います。

今年も無事に「公民館かながわ」を発行することができました。大変お忙しいなか原稿をお寄せいただいた皆様には、深く感謝申し上げます。

無事といえば、今年も世界的に地震や台風など自然災害が多かつ

た一年でした。パキスタンでは大地震が起きましたし、アメリカ南部には強大なハリケーンがたびたび襲来しました。また国内でも大型台風が上陸したり、集中豪雨が頻繁に起きたりして、各地では大きな被害が発生しました。

こうした災害の発生は地球環境の変化と関係があるらしく、一説には、地球温暖化の影響で台風の勢力が強大化しているそうです。そういえば、テレビや新聞で「記録的な雨量・風速」という言葉を何度も耳にした気がします。

利用者の安全を守ることは公民館の大切な役割ですので、私たちが日ごろから災害に対する備えを怠りなくしておく必要があります。でも、災害はないのが一番。来年は災害のない、無事な一年になって欲しいですね。(高)

計報

県公連監事 茅ヶ崎市立香川公民館長 小澤久雄様が、八月、ご逝去されました。

謹んでお悔やみを申し上げます。

新監事紹介

県公連新幹事をご紹介します。

茅ヶ崎市立香川公民館長 小澤和彦氏(任期 平成十八年度総会)

第58回優良公民館表彰 (文部科学大臣表彰)

今年の表彰は、10月31日、東京都千代田区の東海大学校友会館で行われました。全国で60の公民館が表彰され、本県からは2館が受賞されました。

受賞 秦野市立南公民館
相模原市立麻溝公民館
おめでとうございます。